

1・2年生から考える高大接続型入試

最近、高校で学んだことを大学で深めたり、高校生のうちから大学で学んだりしようという、**高大連携・高大接続**という動きが出てきています。高校での学びを大学で続けるという観点で、**高大接続型入試**も実施されています。本校でも、これまで総合型入試や推薦入試でそれに近い内容で受験・進学した生徒は少なからずいます。特に、理数科の**課題研究**や、**自然科学系の部活動での研究**を、さらに大学で深めたいという受験生は、大学側からみても、魅力的に見えると思います。

このような高大接続を掲げた総合型入試では、「**学修計画書**」といった資料作成を課すところが多いです。これは、**大学に入学してからどのような学びをしたいか**を書くものです。気をつけてほしいのは、単に自分がやりたいことを書くのではなく、「その大学にどのような研究室・講座があって、どんな先生がいるから、こういう研究をして、卒業後にこういう進路をとりたい」「そのために今、自分はこういう勉強をしており、ここが課題となっている」というところまで説明できるとよい、ということです。

これとは別に、大学の講義を受けて受験するという**高大接続型入試**があります。とりわけ興味深いのが、**金沢大学の KUGS 特別入試**です。これは、**大学の講義を受けてレポートを提出し、それが合格すると、受験資格を得られる**（受験資格を得られるだけなので、合否はまた別）というものです。大学で講義を受けるものだけでなく、オンラインで受講できる講義もあるので、静岡県民でも問題なく受講できます。**金沢大学が第一志望**なのであれば、事前に大学の授業が受けられるというメリットもあり、受講しない手はありません。また、講義を受講したからといって、金沢大学を受験しなければならないというわけではないので、興味のある分野の授業があれば、受講してレポート提出だけする、ということも可能です。実は最大のハードルは、高校3年生の8月31日までにレポートを提出しなければならない、ということです。ですので、興味があれば、1年生のうちから情報収集してみるのはいかがでしょうか？他にも、**京都大学の特色入試**、**神戸大学の「志」特別選抜**、**奈良女子大学の探究力入試『Q』**など、様々な形式の入試が実施されています。

このような高大接続型の入試は「大学ではどんな研究・講義がされているのか」と、「自分が高校でどんなことをしているのか」を結び付けるものです。そのあたりが明確であればおすすめですし、ちょっと面白そうな入試だからと、あいまいなまま手を出すと、かなり大変だということは言っておきます。

大学の授業を高校生のうちから受講してみる

大学を知るうえで、ホームページやパンフレットは重要な情報源です。また、「夢ナビ」「マナビジョン」などのサービスも便利です。資料集めも大事ですが、大学ではどんな授業をやっているのかのイメージができるといいですね。そのためにもオープンキャンパスへの参加や、本校では2年生の「ミニ大学」の企画を行っています。身近なところでは、YouTubeなどで、講義動画を配信している大学も多いです。ちなみに、磐田南高校は、東京大学の「金曜講座」が受講できる契約をしています。東大に進学するかどうかはともかく、大学がどのような授業をしているのかを感じられるよい企画だと思います。GoogleClassroomの学年連絡クラス→「授業」→「進路連絡」に受講のやり方をアップしていますので、興味のある講義があれば受講してみてください。

なお、本気で大学の講義を受けるなら、「JMOOC」というプラットフォームなど、いろいろあります。ちょっと頑張れば、欧米の大学の講義を無料で受けられるサービスもあります。こういったものは、むしろ社会人になってから受講したくなるかもしれませんね。

大学受験にかかる費用について、保護者と相談しておきましょう

大学進学にあたっては、入学金・授業料、アパートや寮などの家賃や、引っ越し代などいろいろと費用がかかります。ただ、その手前の大学受験についても、結構費用がかかることを見落としがちです。すでに3年生は共通テストの受験料として、18,000円を払っていますが、これから各大学の受験についても、大学の受験料、受験会場までの交通費、場所によっては受験地の宿泊費（もちろん、宿泊予約は必要）など、思いのほか費用がかかります。3年生はすでにイメージが固まってきていると思いますが、1・2年生も、今のうちからどんな感じになりそうか、きちんと保護者と情報共有をしておくといでしょう。

費用にも関わる話ですが、特に国公立大学については、共通テストの自己採点後に、受験する大学が変わる場合があります。そうすると、急にホテルの予約をとらなければならないこともあります。そのあたりについては、自分自身・保護者・担任の先生と作戦を練っておくと慌てることがないと思います。